

2017年3月10日

「3・11を忘れない～福島から未来へ」スピーチ原稿

こんにちは、福島市から来ました。私は、嫁さんと子供が3人、上は20歳と19歳の娘、そして9歳の息子がいます。

震災から5年がたった昨年3月、福島を離れると言う選択をし 行動に移しました。

震災の年の6月から近くの米沢市に母子避難をし 行ったり来たりの生活をしていました。いろいろありましてアパートを引き払いましたが 上の娘たちの大学通学を機に再度、母子避難を選択し実際に行動に移しました。原発事故がもたらす影響については様々な考え方があっていいと思います。ご自分が納得したうえで今の状態を選択したのならそれは全て正しいと、そして、幸せな事なんだと思います。中にはせっかく選択しても実行に移せない方たちが沢山いらっしゃるでしょう。私たちは福島を離れる選択をしました。行く前も言った後も何人かの方に様々な意見をいただきましたが、言葉を選んでしまいますが無知のまま意見を言うのではなくこれらの事をしっかりと勉強し、向き合ったうえで 意見していただけたらなと思いました。もちろん、私たちも十分に足りているかといえばそうではなく、今 私たちに出来る事を考えた結果今に至っています。後々に、何もなかったねと言えればそれで良いのでは、と考えています。

さて、父として、夫として支えるというのはどう言う事なのかまだ私には分かりませんが、ただ一つだけ解ったことがあります。それは、ともに向き合うと言う事でした。

震災後私は、福島で起きてしまっている様々な事や、嫁さんが思っていた子供の健康に対する不安、震災直後の体に悪い物質がいっぱいある時に子供を避難させなかったことに対する後悔、この事に私は向き合うこともせず、嫁さんの気持ちにも寄り添うこともせず、全部嫁さんまかせでいました。多くの父親がそうだったと思います。そんな時、嫁さんとの会話で気が付きました、原発で何かしらの問題が発生した時に

「まただ！もうびくびくしながら戻りたくない。あの時、子供を結局逃がさなかった事をわたしはずっと後悔してるの、このあと、子供たちの体になんかあるんじゃないかって。だから、もう後悔したくないんだ」 あーそうなんだ、そうなんだ、ずうっとそう思ってたんだ！その時初めて放射能の事にも嫁さんの気持ちにも私はちゃんと向き合っていなかったなど、向き合わなきゃダメだなと思いました。結果 福島を離れる選択をし実行に移しました。

母子避難を支える父として、母子だけで避難させた意識は全くなく、父親の私も一緒に避難しているつもりでいますので、支えているではなく一緒に行動しているつもりでいます、まあ 嫁さんはそう思ってくれていないかも知れませんが私はそんなつもりでいます。

子がかすがいと申しますが、子供が成長していく中で数多くの人たちと関わりを持つでしょう。今回の震災によって、子供たちが置かれる環境が一変した状況を見るに見かねず手を差し延べて下さった方々と 私たち被災者を結んでくれているのではないのでしょうか。

先日、全国の保養団体の方々とお話をさせていただく機会がありました、前から思っていた事ですが皆さんの何とかしてあげたいと思うそのモチベーションは何処から来るんでしょうとお聞きしてみました。そしたら、ある方がいとも簡単に「それは、愛でしょ！」と話してくださいました。きっとこれは、親が子に注ぐ愛と、何ら変わることがないんだろうなと思っております。

今私は、縁があって、ぽかぽかハウスのサポートをさせていただいています。スタッフの皆さんのパワーと参加する家族へ寄り添ってくださる気持ちのモチベーションの高さに敬服いたしております。恩返しのつもりでお手伝いさせていただいていますが、そこで気が付いたのは台所で食事の支度中お母さん方がよくあしゃべりをしてらっしゃるんですね、それは、あそこでしか話せない事だと思います。あの様子を見てあ、今この時間は お母さん方が保養しているんだなと感じました。実はとても大切な時間なのではと思っています。

今年の夏の夜には、ぽかぽかハウスの庭にブルーシート敷いて寝転んでの流れ星を子供たちと見られたら良いなと思っています。

私の職場は福島県二本松市と言う所にあります、そこには福島県男女共生センターと言うのがあって、事故直後から1か月 緊急被曝スクリーニングの施設 になっていました。原発から逃げてきた家族が まず先にそこで被曝しているかどうか困るんです。職場の同僚がその前を通った時、母親らしき人が外、 娘らしき人が中で大きなガラス越しに不安そうに話をしていたのを見たそうです。

避難先の石川県能都町に引っ越し、初めて二人を置いて福島に帰る夜 嫁さんと息子の 不安で寂しくてそして言葉には出さず 私たちを置いて行かないで、というあ

の泣き顔を 私は忘れる事が出来ません。 原発事故が天災であっても人災であっても また起こるかもしれないというなら、再稼働には反対です。

最後になりますが、福島を離れてまだ1年しかたっていませんが、正直ちょっとつかれました、あまり物事を深く考えない私でさえそう感じていますので、あの時、あの泣き顔を見せた嫁さんと息子は、行った者でしかわからない寂しさを感じているんじゃないのかなと思っています。

ご清聴ありがとうございました。